

言葉の力

「家族だから言葉にしなくても分かり合える？」

こんなことはありませんか？

山田家の朝7時。みんな大忙しです。お母さんは家事も仕事もテキパキとこなします。一方、まことさんは妹の面倒も見てくれるやさしい小学校4年生の男の子。食事の用意もよく手伝ってくれますが、ちょっぴりマイペースでおっちょこちょい。お母さんは時々いらいらすることもあります。

あっ、まことさん！手が滑って、ミルクの入ったカップを床にガッシャ〜ン！とんでもない状態に！

それを見たお母さんは思わず、「何やってるの！この忙しい時に！」と怒鳴ってしまいました。まことさんは泣きだしました。



ワーク1

まことさんのお母さんのような経験はありませんか？焦っている時やイライラしている時、ついとげとげしい言い方をしてしまった経験を交流しましょう。

.....

.....

.....



ワーク2

イライラを抑えて、冷静に対応できたことはありますか？また、あなた自身が「理想とする」対応の仕方を交流しましょう。

.....

.....

.....



ワークシート2

ワーク3

【ペアでなりきりパフォーマンス】

お母さんとまことさんの役割を演じてみましょう。(1回目:お母さんは怒りを爆発させ、2回目:まことさんの気持ちを尊重して)

ガッシャーン

まことさん: (半泣き状態で) ワーツ、こぼしちゃったよ～。

お母さん :

まことさん:

お母さん :



アドリブも入れて、「なりきりパフォーマンス」にチャレンジ!!

◇他の方の意見をメモしましょう◇



いいね!



いいね!

今日気が付いたこと、わが家でもやってみようと思ったことは何でしたか?



今日からぜひやってみてくださいね。お疲れ様でした。



親も忙しくて余裕をなくし、心ない言葉をかけてしまうこともあるね。でも、子どもの立場に立って考えてみると、どうだろう? 昔どこかで聞いた「家族だからこそ言わなくても分かり合える」というのは本当なんだろうか? 子どもには、愛情溢れる言葉がけが必要なんだよ。温かい言葉の持つパワーを再認識してほしいものだね。

「あったかい言葉かけ県民運動」いじめをしない!させない!許さない!

まだ終わってない

野球の試合のとき、まけていると「まだ終わっていない」と声をかけてくれてうれしかった。仲間ともはげましあって戦いきれた。だからほくも、がんばってできた。(小学生)

少しずついいんじゃない

僕は色々なことがあって落ち込んでいた時、友達から「自分でできるって思えばできる。一気に悩まず、少しずついいんじゃない?」という言葉をかけてもらってすごく元気が出ました。今でも困ったときはこの言葉を胸に頑張っています。

(中学生)

不安に思っている自分を不安に思わなくていい

進路で悩んでいた時、いつも相談ののってくださる担任の先生がくださった言葉です。この言葉のおかげで、不安に思っている自分を不安に思わなくていいんだと思えることができ、肩からとても重い荷がとれて、とても助かりました。(中学生)

いつだって 私はあなたの 味方だよ

私が、ならい事で、少し不安なことがあって、そのならい事を、辞めなきゃいけなくなってしまったときに、お父さんとお母さんが「ママとパパだけは、いつだって、あなたの味方だよ」と言ってくれたのが、すごく嬉しかった。自分の味方でいてくれる人がいてくれて、心強かった。お父さん、お母さん、ありがとう。(小学生)

楽しかったよ! ありがとう

私は、小学校6年生のときに、友達といっしょに地域で行われていた「ふれあいサロン」のようなのに参加しました。そのときは「ちょっとやってみようかな?」という気持ちで行きました。そしたら、とても楽しくて、地域の方と関わることができ、とてもうれしかったです。そしたら、帰るときに、地域の方が笑顔でこう言ってくれました。「今日はありがとう。たのしかったよ」という地域の方の言葉は忘れません。学校でも人が傷つくような言葉ではなく、このようなあったかい言葉が増えれば良いのになどふと思いました。このように、いじめの世界というのをなくし、あったかい言葉が増えることを祈っています。それが私の1番の願いです。(中学生)

ひーちゃんは

ずっと私の中で消えることはないから

私は中学校に入学するとき、東京から岐阜に引っ越してきました。岐阜での生活はとても楽しいけど、それでもたまに、東京の友達に会いたい…と思うことがあります。でも最近、「2年半も離れて暮らしていたから、もうみんな私のことなんか忘れているかも…」と不安やさみしさを感じていました。そんなとき、私を「ひーちゃん」と呼んでいる友達から、この言葉が書かれた手紙をもらい、とても嬉しかったし、離れていても、みんなとはつながっている!と強く実感できました。(中学生)

いつもありがとな

私は4年ほど前から高山に住み始めました。こちらに来て感じたのが、皆「すみません。」ではなく、「ありがとな。」という言葉がたくさん使うなあということです。「いつもすみません。」ではなく、「いつもありがとな。」帰り道にも「そしゃ、ありがとな。」本当によく聞くと、私も会話の始めに「いつもありがとな。」を言えるようになってきました。お互いに助け合い、感謝し合っているからこそこの言葉の文化だと思っています。(保護者)

事故にあったらみんなが悲しむんだよ!

ある日の登校日のこと

2年生男児が集団登校の列を離れて、車道に大きく、はみ出しました。それを見た登校班長が注意。「あぶないでしょう! OOさんが事故にあったらOOさんが痛いだけでなく、クラスの友達も、お家の人も、まわりの人も、みんなが悲しむんだよ。ルールを守ろうね」と。見守り隊をやっているとても感激した言葉でした。叱るだけでなく諭すことも大切ですね。(地域の方)

努力はむだじゃない! 頑張れ!

サッカーの練習が上手くいかない日が続いて、伸び悩んだときにコーチから言われた言葉です。自信をなくしていた私にとって救いでした。この言葉があって自分のプレーに自信をもってできるようになり、今ではレギュラーです。「頑張れ!」という言葉は人を勇気づける魔法の言葉だと思っています。「努力は必ず報われる」という言葉を再認識しました。(中学生)

みんなの笑顔が見たいんだよ

暑い日も寒い日もどんな日も、私たちがバスに乗るまで見守ってくださる見守り隊のおじいさんがいます。いつも「おはよう。」と言ってくれるおじいさんです。「いつもありがとうございます。毎日じゃなくても大丈夫ですし、熱中症になったら大変ですよ。」と言うと、「みんなの笑顔が見たいんだよ。」と言ってくださって、とてもうれしかったです。(小学生)

あったかい言葉かけ運動

過去の作品紹介 (岐阜県教育委員会 学校安全課HP)



大人と子ども、そして大人同士、子ども同士が、互いに「あったかい言葉」をかけ合い、思いやりあふれる温かい関係を地域社会において創り出せば、学校におけるいじめを未然に防ぐことにつながります。

励ましはもちろん、時には、たった一言のあいさつや声かけ、相手を思いやってかける言葉が、相手にとって「あったかい言葉」になることもあります。

資料2

実践カード

〇〇の間に伝えよう「あなたの思い」を

提案します

ちよつとひと工夫

超簡単

在宅取組型シート

あちこちの学校で取り組んでいる「あったかい言葉かけ運動」。
何気ない一言に心揺さぶられ、グッとくることもありますね。
この運動が家族・友人・地域でも広がったら素敵だと思いませんか。
あなたの周りに温かい言葉が溢れていますように。♡♡♡♡

一例

10月3日 おじいちゃんへ

「学校からの帰り道、急に雨が降ってきた時、ハアハアと息を切らしながら、傘を持ってきてくれたよね。汗びっしょりだったよね。ありがとう大好きだよ。」



10月3日 美咲へ

「美咲が風邪でもひいたら大変だと思って、急いで迎えに行ったんだよ。美咲がすくすく優しい子に育ってくれて、本当にうれしいなあ。」

飾らない素直な気持ちを伝えてみたよ。具体的な例を入れたけど、ありがとうの気持ちが伝わったよね。

あんまりそういうことは言わない子だけど、こんなふうにも思ってもらっていることが分かって、本当にうれしいなあ。

あなたの取組

月 日

月 日

感想

〇この取組について、あなたの感想を書いてみよう。(ただ、「楽しかった、うれしかった」だけでなく、その時の様子を詳しく書いてみよう。)

年 組 氏名

*この取組は各園・学校の実情に合わせて様々なバリエーションが考えられます。実施後は掲示するなどして、ほっこりムードが広がるといいですね。

親なら、子どもに何を言ってもいいの？

親

～「子を育てる」という目線から「子ども親も学び合う」へ～

子

「なんだ、この点数は！宿題もやっていないんじゃないか？」
 「こんな問題もわからないのか！」
 「今日から、ゲームは取りあげるぞ」
 「親の気持ちがちっともわからないやつだ」
 「誰に似たんだ！」



【親の本当の思い】

親なら、何でも言っていていいわけではないのは分かっているが・・・勉強もつまずいているようで、この先とても心配。親として、何とかしなければと思ってしまい・・・ ついつい大声で怒ってしまったが・・・

「どうせ、僕なんか・・・何やってもダメなんだ！」
 「宿題だってやろうとしたんだ。頑張ったんだけどわからないんだ」
 「誰も僕の気持ちをわかってくれない・・・」
 「サッカーだって、休まずに行っているのに!!」
 「ゲーム取りあげられたら、どうしよう」



【子の本当の思い】

算数も運動もできるようにになりたい。自分なりにがんばってるのに・・・そこまで言われるとやる気をなくしちゃう。ゲーム時間も減らしているのに・・・僕なんか生まれてこないほうがよかったのかなあ・・・



ポイント



怒りは人間が本来持っている自然な感情です。しかし、それが前面に出過ぎると言葉が攻撃的になり、子どもの心を傷つけることとなります。そんな時は、ちょっと深呼吸し、自分が本当に相手に伝えたいことは何か？ということを考えてみましょう。上の例では、「怒り」ではなく「心配している」ということを伝えたいのですね。



まず、子どもの話をじっくりと聞いてください。次に、子どもの気持ちを汲み取り、「お父さんも、心配していたんだ」「そうなんだ。よく話してくれたね」と共感的な言葉をかけるようにしたらどうでしょう？

点数や結果のみにとらわれたり、他の子と比較したりしないで、その子自身の小さな努力や成長に気付いて、褒めてあげることが大切にして、言葉がけができる親でありたいものです。

進行案

ねらい

○ 子どもにける言葉を振り返り、どんな言葉をかけると子どもの成長につながるのかを考えましょう。

時間	進め方	留意点
10分	<p>はじめのことば</p> <p>「みなさん、こんにちは。本日は参加いただきありがとうございます。今日は『言葉の力』について考えましょう。」</p> <p>アイスブレイク</p> <p>「最初にみなさんで簡単なゲームを楽しみましょう。では、やり方を説明します。」</p> <p>◆グループ内でペアを作り自己紹介。(メモ可)</p> <p>◆次に、グループ内全体で、ペアになった相手の紹介を順番にしていく。</p>	<p>◇笑顔で親しみやすい言動を心がける。</p> <p>小道具として「お茶」やちょっとした「お菓子」があると、やわらかい雰囲気を演出し、話も弾みやすくなる。</p>  <p>◇「7 アイスブレイク②」参照。</p>
35分	<p>3つの約束の確認</p> <p>「では、これから活動に入りますが、その中でみなさんに守ってほしい約束が3つあります。」</p> <p>◆3つの約束を確認する。</p> <p>ワークショップ</p> <p>「まず、ワークシートをご覧ください。」</p> <p>◆「こんなことはありませんか?」を読む。</p> <p><ワーク1></p> <p>「では、まことさんのお母さんのような体験はありませんか。つい、とげのある言葉を使ってしまった経験を書きましよう。」</p> <p>◆ワークシートに考えをメモし、グループで交流。実体験を挙げてもらう。</p> <p><ワーク2></p> <p>「イライラを抑えて冷静に対応できた経験があれば、書いて下さい。ない場合は上の山田家の例を参考に、(まことさんの気持ちを理解して)理想とする対応例を書きましよう。」</p> <p>◆ワークシートに考えをメモし、グループで交流。実体験や理想とする対応例を挙げてもらう。</p> <p><ワーク3> (時間に余裕があれば取り組む)</p> <p>「2人になりきって、ペアワークをしてみましょう。1回目はお母さんの怒りをストレートに表して。2回目はまことさんの気持ちを尊重して。」</p>	 <p>◇「3 3つの約束」参照。</p> <p>◇家庭内の話題も出るため、信頼関係が大切であることを理解してもらう。</p> <p>◇「5 進行役について(1)子育てサロン型」参照。</p> <p>◇ワークシートにメモする時間がなければ、そのまま交流に入ってもよい。</p> <p>◇参加者が話しやすくなるよう、進行役が最初に困っていることや悩んでいることを話すもよい。</p> <p>◇時間配分を考え、全員に話す機会を与える。</p> <p>◇時間があれば、「ペアでなりきりパフォーマンス」をやってもらったり、全体の場で、演じてもらったりしてもよい。</p>
15分	<p>振り返り</p> <p>「今日の話し合いを聞いて、よいと思ったこと、やってみようと思ったことは何ですか。」</p> <p>◆ワークシートに考えをメモし、グループで交流。</p> <p>・ペアワークをすることで、より子どもの悲しい気持ちが理解できた。</p> <p>「いろいろな意見の中には、今日からいかせそうなヒントがありました。私は○○さんの△△という意見がなるほどと思いました。話し合うことで気持ちが軽くなった方もいらっしゃるでしょう。これからも積極的にこうした機会を活用してください。子どもの立場に立った言葉かけができるようになれば、子どもも家族も変わります。資料を参考に、家族全員でチャレンジしてみましょう。」</p>	<p>◇代表で1~2人に話してもらう。</p> <p>◇時間があれば、資料1、3を配布する。</p> <p>◇進行役が参加者と同じ目線で「こんなヒントをもらった」という話ができるとよい。</p> <p>◇資料2を参考に各家庭での実践を促す。</p>